120
43
53

續膝栗毛

十二編中

四十二

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

東京圖書館
和書門
小說類
二六函
二二架
九一號
四三冊
120
43
53

續膝栗毛十二編

中

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

續膝栗毛十二編

いざ出立の。出る新たかゝるとりの熊谷の驛をうち
出て。ふかくる。此所は久下の次郎直光が居住
の地なるよし。やがて名の同名あるべし籠原あくよう
となりをうけて弥次郎兵衛もかれふいと見いる。まくらんせ
いのく弥次「ヤアゆかぬ道の増さ哉。おめへさん人かとおもへ
北八「イヤおまへがこのさん出あつてたゞどあと
ま買かりのしてあつて出かけるをきつい。あひつとくおりよ

TOKIO LIBRARY. FOUNDED BY MOMBUSHO 1872 東京書籍館明治五年文部省創立
明治卅年交換

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

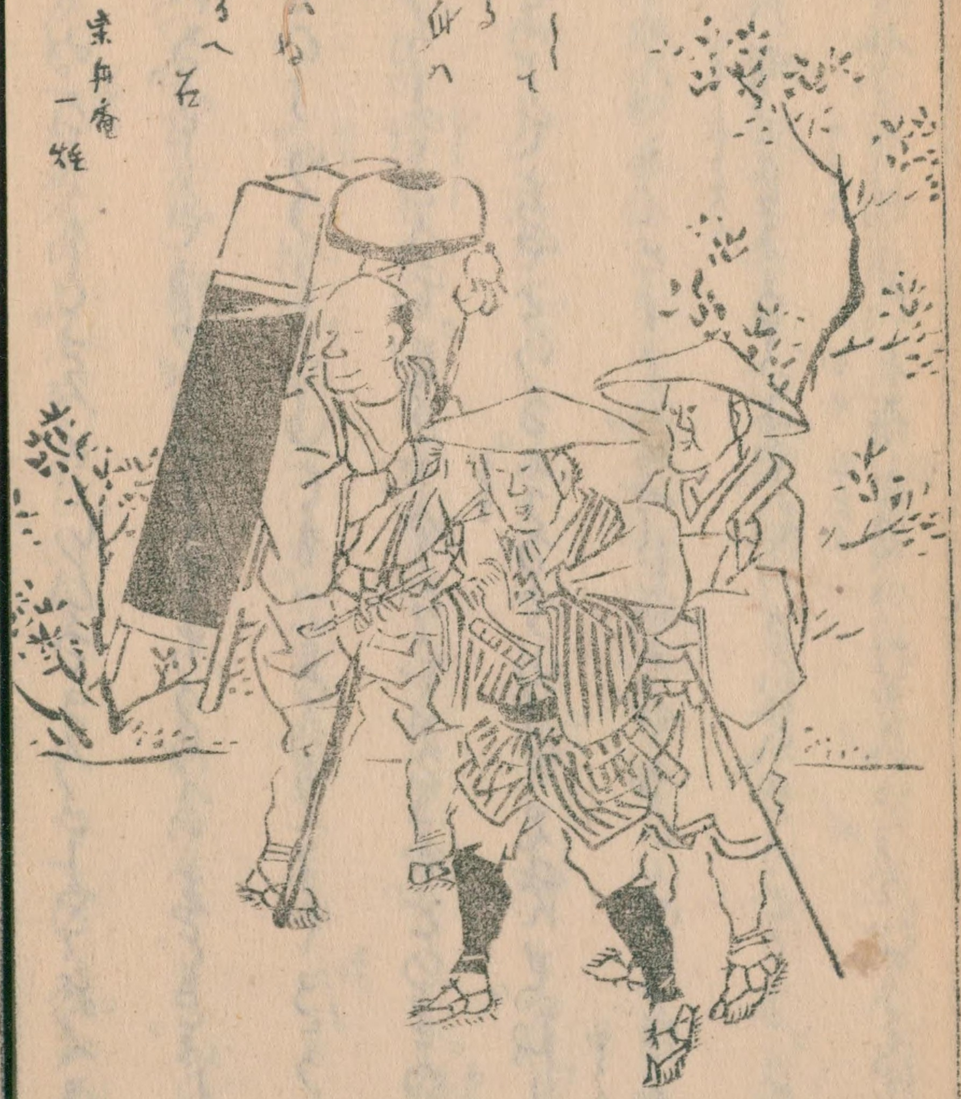
国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

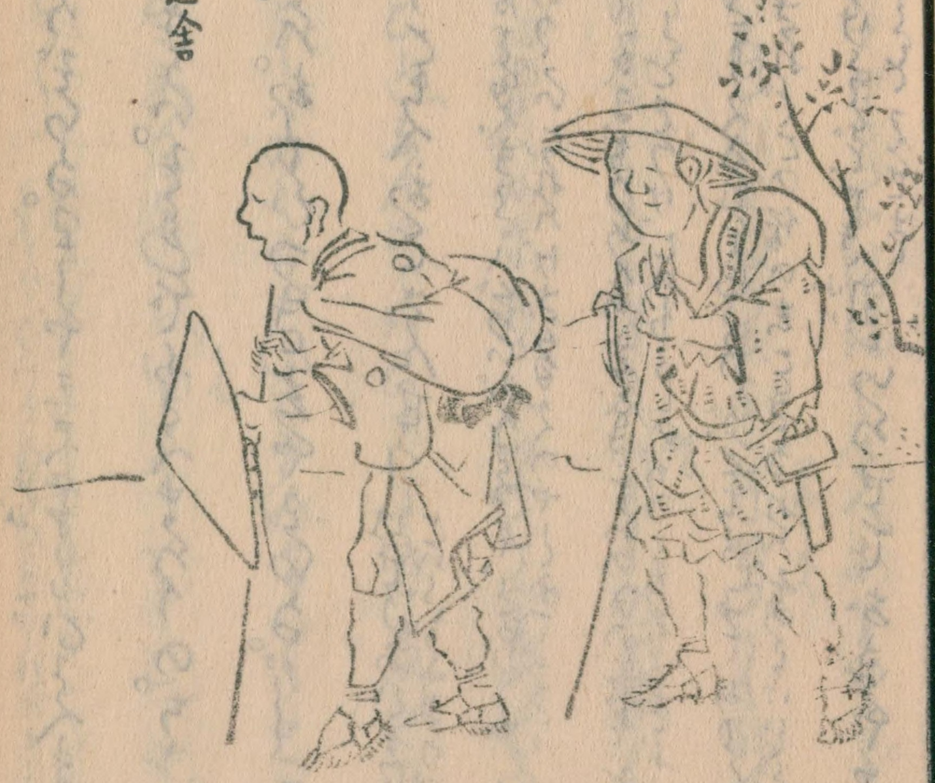
国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

ごふして。ふんごしをしてゐる〻僧まうもぎろ三流ぞ。ふんごし
かいてじや。ごとのくふくか。むらされちりめんのふんどし。かいて
あるものと。はたことゝがるいまいる〻浅ヤアむらされちりめん
のふんごしをしてゐるか。ドレくはせやまと〻中十二ら〻ちゆ〻して
おき稼人。との増五めへ。いろくのとしをぬかまやアかる。おいて
まるつてゐる俗が稼人。サア浅ぎん。出うけやせう〻僧ヤく
ゆうんまいる。そまてもいうんまるう。そのふんどしおいて
いうんせく〻浅おめへのふんごしを。此男がしてゐるのかへ。おめへ

もふ〻てゐるさるく。さろきいひるさろこじやア稼人久
〻僧されがいる。ましやゆふべのやどで。ちりめんの志どきこし
るふて。そとらいつぺんさづけても。志まんりんじやさうい。
かつこうして。こうてまたが。今とこでは。とのまろが
ふんごしにして。ぎやまいる。ゆるう出して見ゆんせ。むら
されちりめんのふんごしこれ。めづらしいぎやるいかいる。増五
のわうぞへ。僧正宮にるうにや。むらされへきるとこるこうん
まいる。それは勿体ない。無理無理のむきいやうが。むらされの





国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

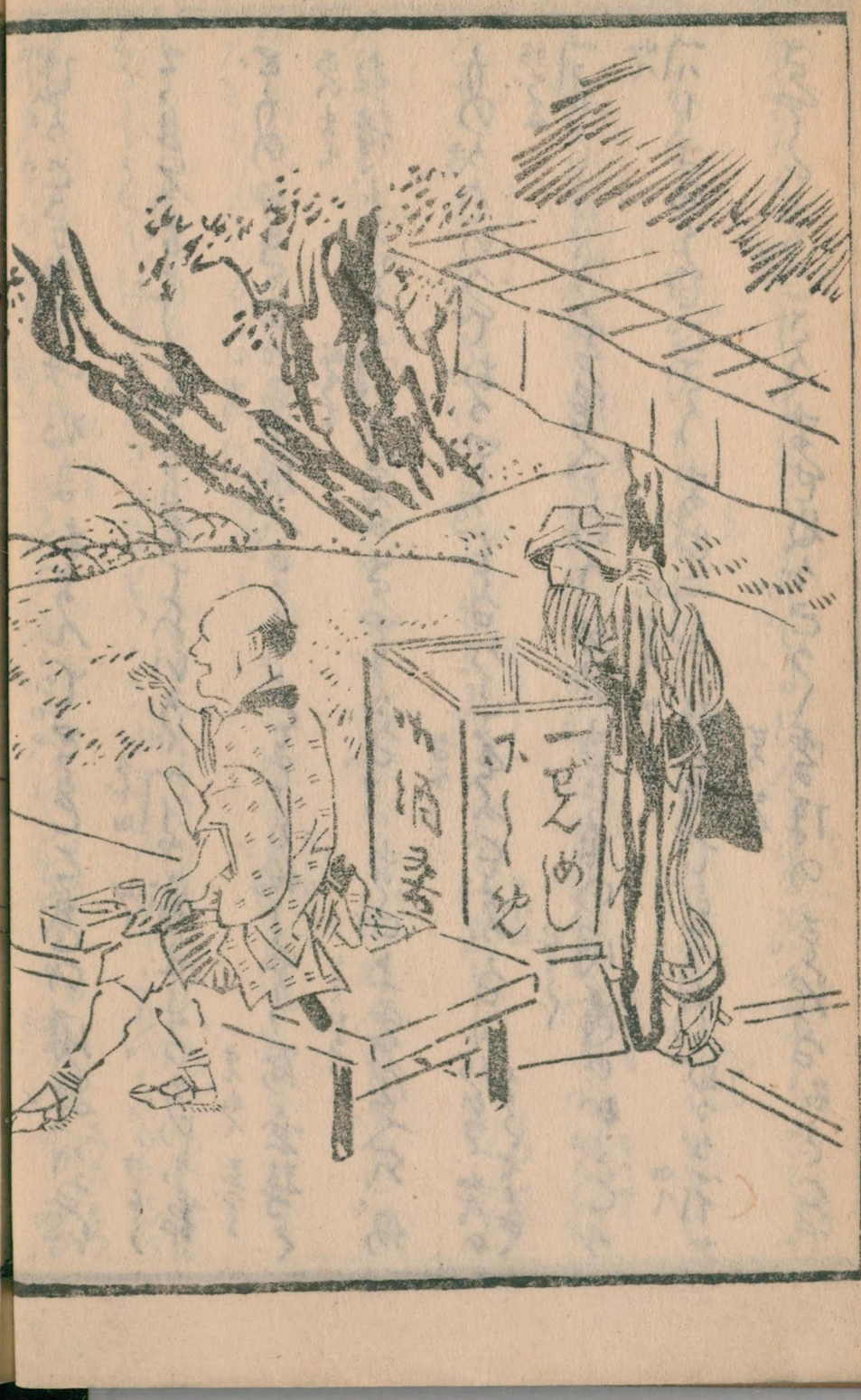
ふんごしの四討(だち)があるゝぞいる。こしや三尺帯(おび)もひとへまわり
おやゝ志ありがとるいさかい。そもしでふくへまわりの。ちりめん
の志どれ。ふんごしとれ。おもひつき志やこいる。ハ〳〵とま
どといへどと。おやうとも人おとさんせ　ト此せりあひ志ちいよ
とれぞうふるれば。そこふ
ぬあれせしかのもきふぬるとゆへきこ八ぶれいぶんこるく。さうびしや。まで。
つけんとまれどもいかぎどいろこいとれハけさるぶのやじあてぎこ八一ぶん
あとより。ぎしきことちゝるにぢりめんの志ぞきこのかの。次ぎとてに
あいぐとより。出らうてありしをみつけ。とのわらしのかのとも志ちをふうしと
出まどろあてちゝるいとこりくへ入れて出さうしが。そちら。まくおもひつき。
ふんごしに志わるゝ。されどこの僧の志ごきるれば。そのうけどぶんぐ。
いひつのり。きこ八のひらけさうぞ。せきこ小八コレいわせておきやア。大
めんしるがら。ごぞこと。まこをとゝんせぎ

それこどうをつきやアがる。宗縮緬(むらさきちりめん)でさへあまやア。ぎさ
まのかのう。あてぎいるをとぬうをとと。寿(ぶんん)笞し移へが。
こぐし。きろこしに強(せきと)授でもあるへ小僧こしのおやしいふ
せうこい。そのふんどし。何尺何すあるといふとと。志ってういる
どふぶかいの小志をことと。ふんごしの六尺にきまるこかのご
僧ソレくそぶやさうい。こしがのふちがひいるい。サアくこりて
みゆんせ。ソリヤ六尺ある。こいる。ふん。ふんよへせうこしや。サア
あらさめてみゆんせしく　ト此いきくさまてしつ目どきこ八のうて。
えんぐだけがあらわれば。ざまがの

こゝをとつける男ぐ。おもはまで。外関をかゝせやアが何と
ゴハ
ゴヤ かぶくいひつとるしさ。とのゝ人をとんざとゝア。おがん
孫人。まりいとゝハし孫人かのぐ。笑口しく トつぶやきなからゆきくて
まやくもかうのをめ
あゆくはいたり ゐる。おきがしの孫のきを
るゝぐで。おぎれひ ゐるを はまこを
鰹昌につけ 商人のおらひ ゆゑ こゝろ
とかく こまらぬ 鴎の巣の 宿
孫人
ゴるんざうおまへ。けさからむしがかぶりてるゝ孫人ち何と
体んでいかふ ーがうぎるの茶やへまいるとおくのざしきま侍二人づき
こしをうけてやさきいたり ゐるがひとりのさふらひ
ゴナニト 捨身氏。左中へこうく望遠でるくてへたのしこゝに
おもはるゝ ものでどざる。拙者るどへいかいてゝ。江戸表
出立の御より。後痛がいたして悪難義いたしまが。今日も
まや雪隠人およそ七八度もまかりとしてどざるが。又ハ
只今。老きりまるつてまいりて。内退屋でどざろうから。
おさへおとしるさまし。拙者へ雪隠人まかりまいると。
いたりてもふどざるて ゴヤ 窪田氏。内挟拙でどざるが。ハテ
何ことともどざるものぐ。則たもも生来かゝ後痛いたしまして

あなたは隠しまするがおまへは只今珍蓮どのまうしたとおま
ともんどこ所。そのわけ先おさ様へお出なさるとへイヤく
さやうなら申さく其後から。おとしなされましたへハテ此節は段
とやお手前きいつきさもの様なし弥次郎べゑ根く
なかしおさき人まうしまするでござりますがのなさるとト
いひさまざしきこちの上せいちんへの。へ口へこくどまへ中まう
戸とあけんとするに珍蓮の内より
かの武士きぬかどとのこの侍二人ぜんちくよりそとへ出ござるひる
ごろしるまで隠まうしまする故ちんへ向きろく見つるゆゑに侍の
さやうな人まりござりまうしてなりまうしてござるか。まあ作雪
ありのとうの侍へ

隠がござろう此処はおよんでござるとござるの用捨ならぬ
そまし人おとしなされましていくへイヤ武士たるもの。お節
どりの用きこある番人まうしとまる物しやう御念なく
お待ちまうせうへいやさばさら召さるコノまうし上番人ゆゑ。能
かのがたいつてある申。なるほど本にござるなトいひて小八のあるとをも
へヨレく只今番人とやうあるへきざるなの用道のおよとう
へハイさやうでござりまするへ十二カ腹痛でもいたしあるかへ作出
さやうでもござりませぬが。とかく雪隠のきれたおとしかた

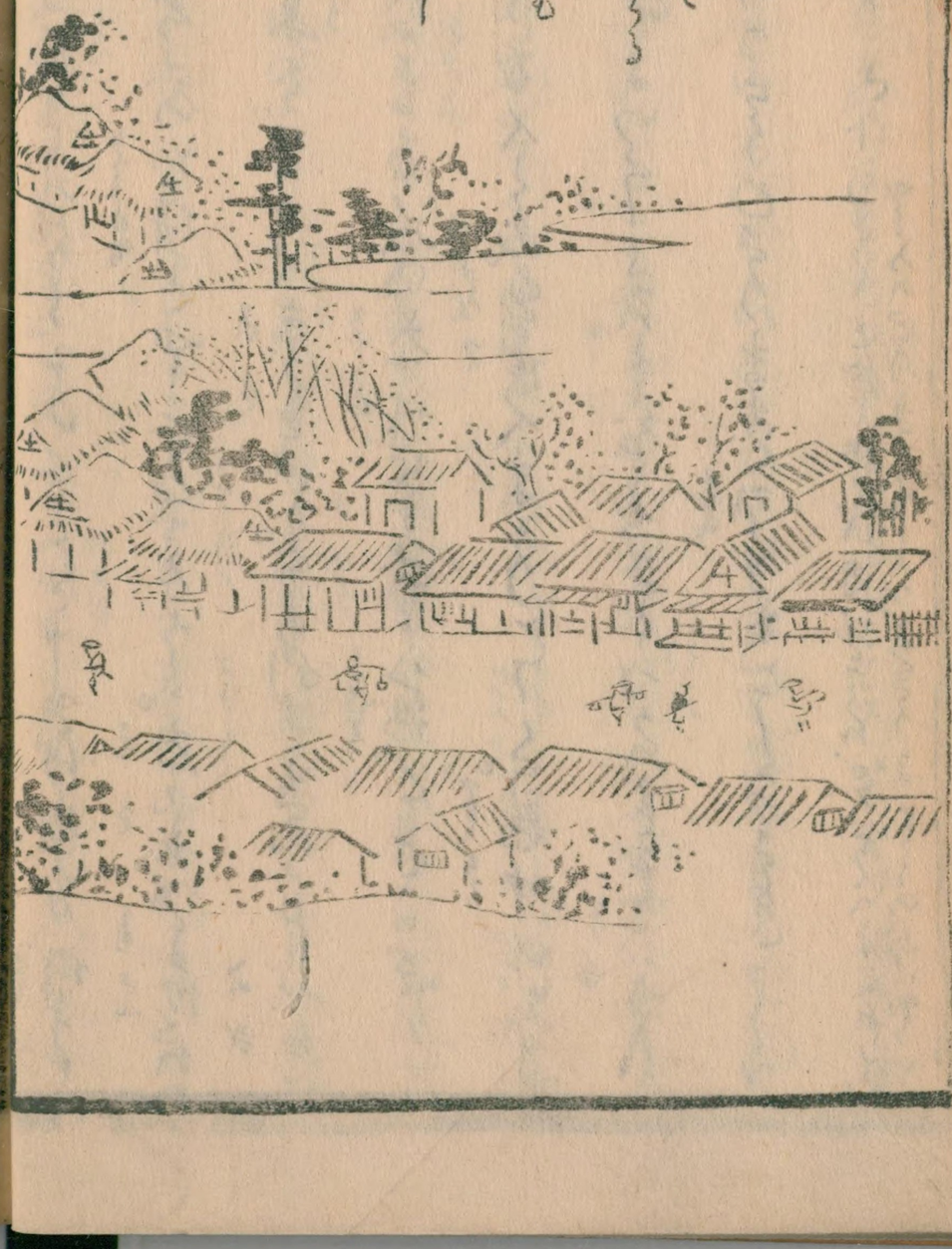


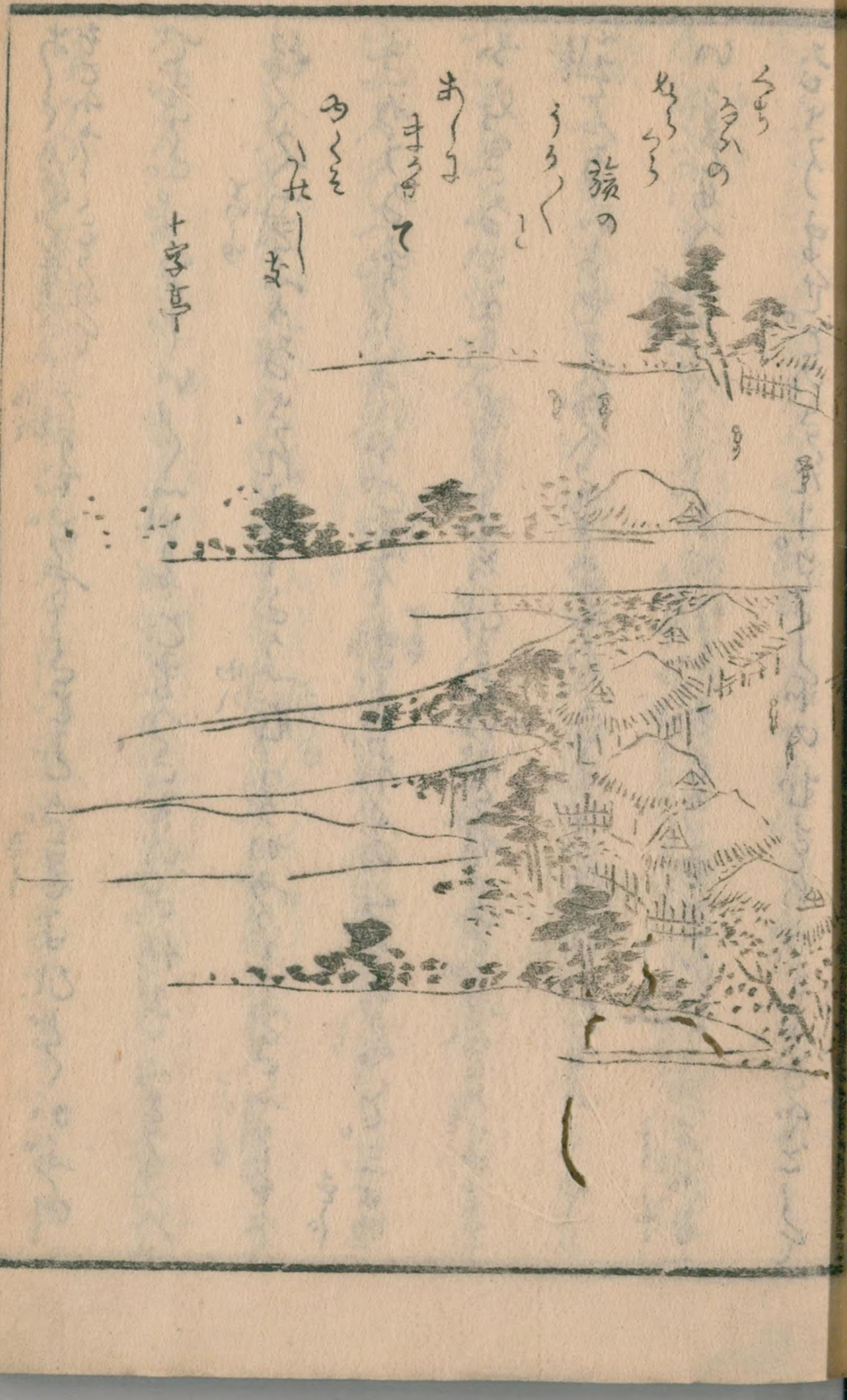
国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

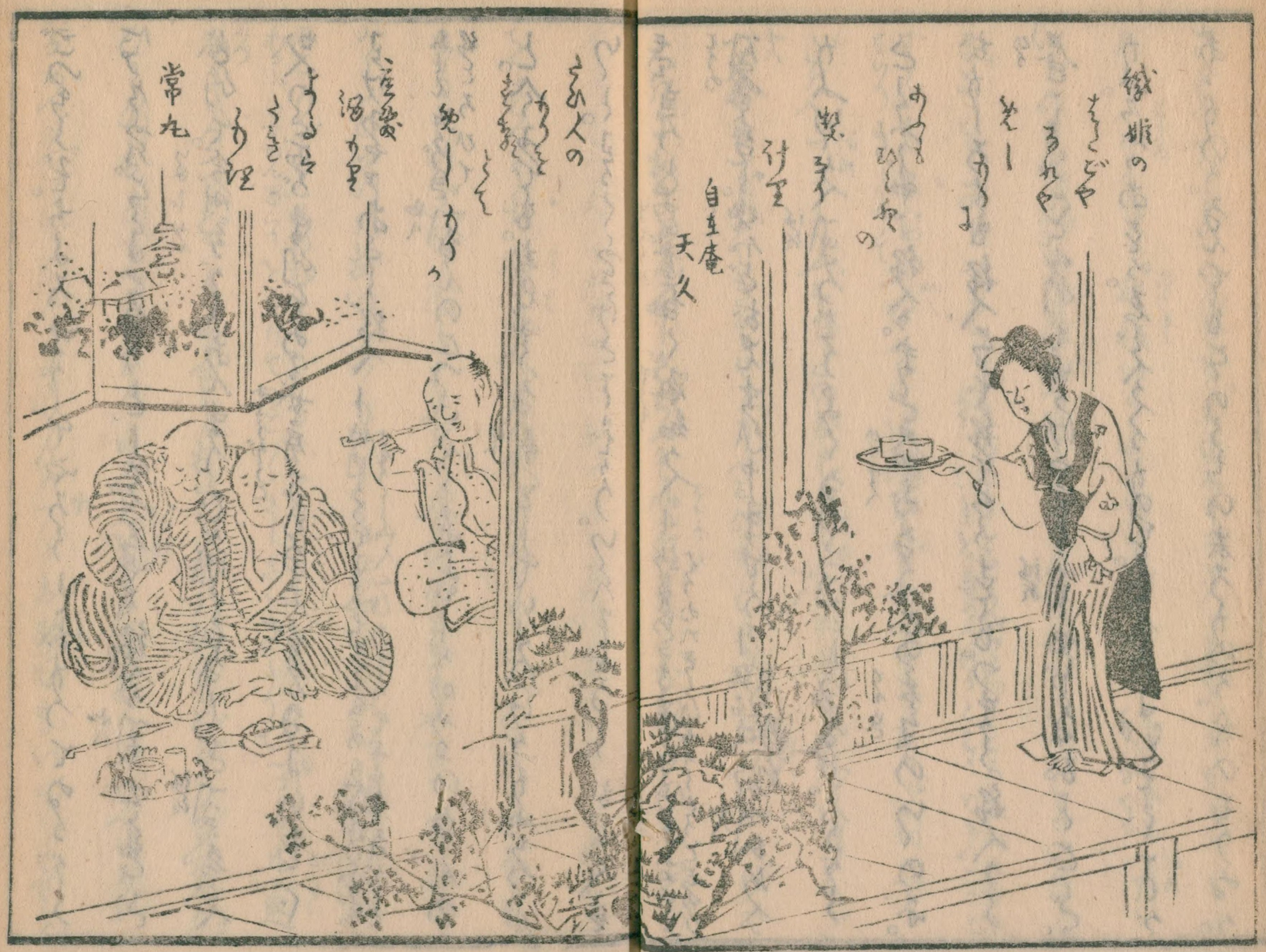
国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

そのあんまをよんでかへつてくる　ト　まどをたゝけば　弥次　およびなさる
さやうでござりやす　北八　コウ　ごぜ　よまるあんまはあるめへか　ハイ　女の
おとふりますの針医さまがござりますと　あんまでも上手で
ござりますから。それはさてつかはしませう。コリヤアもうおかみ
きく女が面をうづめて　ござりやすおさうぞうしておかりなさい
なさりませ　ト　ひきて　あきしがあだつくして女のきこうし座敷
のはしきぎかりの女あるあたふらう
ひるまごろきたのはなうちやのよ　北八　ハイ　ゆめんさ　あらうりませ
いつなるびとへ　ぎんりを　あつうけてきやう
弥次　あんまさんかハイ　おきなはあるさでござりますか　弥次　あしが
かゞんでおりやせんかへ。ダガ何でもサア〳〵とつて〳〵　弥次　金の額
ございまして御出なさりませ　ト　弥次が顔をなでておほきなかほ
弥次このあんまをなでさすり　おほきなかほをもらしとふけてゐし
つれてしまやした。ぞんざあなので　かうして　どうぞござりまする　ト
とりあへず　弥次　おまへきちへおいでくださいもんだの　おかみごちや
とても　北八　いえ　ところどころござりません　ト　北八　弥次　おかしく
北八　ほんによなうおかし　弥次　ゆめくどくしてやせんぞなもし
いやもうおめへがそのやうなことをとつちやこまるでせう

さまろうしてくんなせ。そのわうぶ乃つく。むくぶおちつくぐ
ろう 川そんなら。按後いくしてあげませう ト たちをおち 川やく
いくらもちぐ。おかげで大和よりよくなりやしさ。やこてかのこと
まとゝをこのゝやまゝ ト まろぬのほをさらべいたむことろをおしせ
まらひうへふくぬ 川ぬ ふぐ 孫 きん。かつきがさんぐいふう
ぐりへ 川ヤ りふ。とるこのおまりで。ところ もちがまちぐ
川ぬ やまゝが出てきちやア。りふと川ちのものぐ 川イヤおかげで
大和よおきまりやしさ。おふぞ晩程まるゝ。お孫がひややまを。

モシ きろくなる遠なく。承知ろへ ト あくんのうちまくなくまゝめうけ
まろぬ 川きやうなら。晩ハどおんまひやませう ト 孫名人ちくや 川おめ人
りふいくろへ 川きろだりよくなつて 川ハ ナントいなくなりから
こゝふしやア孫人か。まぐ盃おなり。とのまものいくのは。
おかしろくも孫へとゝで孫てくらまとも。つまら孫へから。
盃ちとぐとくりて。出かけやせう 川ぬ やぶるおとゝぐ。
りふ。乃ふかあまとう。まぐ人かくろりのと。そんなよいそくとゝか
あるものか。なんでもとてのうちの志ろりのう。今のまうぬか。



国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

ごつちらぞ。ちよろまうしてやろうとおもうてゐるから。
ヘアそふれ。とうまつるなりと。して人ぢやア稲人か[illegible]
と例て。今時分からあんまりだうげさまるしぞ[illegible]
かへつて所が。まつてゐる女房子れるし。そんなよいそぐ
まけにやア[illegible]稲人ト[illegible]
ふとんおがき[illegible]のとつて。今までむしがかぶるのなんの
絵とろびて
と。今にでも。[illegible]をしていろけが。もふちろと
いと。まるくふさけてまだかう。いへそんなら おめ人さ。

今のまうゐは志なせ人おいらア さ例き。おめ人がまり
をさるうち。勝て人い例てまるしたがとてのこだも
さるものぞ。ぞふまらまるし合の。[illegible]まふるまもある
から。と例れおいらのものときめやせう ト[illegible]
ことろべまるめのむし重ざるにまちあるをそへ。おんよの世[illegible]
あるドの女かんごうをさげて。ごとくざしきくきらうて[illegible]コリヤ[illegible]
[illegible]さるでどぞうませう。おさう[illegible]ぬもどぞうませんが。
ひと例おあがりなさうませ[illegible]ありがとへ[illegible]
おめ人もとてであがりませんか[illegible]お[illegible]でもいさしませう。

ト 孫ばかりのこゝまでじめてぶんぐとさうぐきとせ 世 まれをまゆもるるくちと見へ ひきうけのこそ 世 おるさがこ。江戸へ
ごろちらでどざりまを 世 ゆへ アイ神田の八丁ぶりさへまし
の先生も。神田でどざりましこ 孫ばか おめへの先生これ。
お師道さ身のことう。ゆをるらひるさうこ。生花か茶
の湯か。書画のまるものか 世 イエコさこれ。一刀ぶりの
初術をしいていらしましこ先生とりかへ 穴山流をを
とかて。二三年おとうら。武者修行に出らましこ。
こうしの祖父へおるゝ二刀流でも。一流をさそこ人で。

そまゆへまてしも。初めのうちから。しいていこしまして。
この三四年おとまでへおやしきまつとめて。お姫様へ
長刀の指南をいらしてありましこが。もとしのこけ
でおいら身を孫がひまして。今とふまいりてありても
所の若衆流星見まきゆへ。授なくきとしづくの指
南をしてありまきうら。後にへこるしいとまつら見
まきゆへ。おやう身ぶりどざりませう ト 孫ばかりへ
さめたてあきれ 孫ばか そんなるらおめへ。しんじゆつの志なん

なさるのか。そのうへおめへのかかに似合稱へ。せんざ
れなくぶ女まとしは女のところなり。何もかくしてあり
ましが。ごとできつゝかゝ。おかしは浪人流が。こゞ稱て
まへらましまきにはこなりまきと。以文日あとはも。此宿
れづまの茶屋で。諸の浪人流が三人。ゆ湯のうへで
まろれやきして。怪乱人もありましとから。きこしへ
このんでまつりましとが。女のいらざるものとあとはを
ゆとはれど。大ばいの人の。雑義をもることとてぞんじて。れ

おきとまかけてどざりまきと。鼻捻をさげてまいりて。
三人とも。こゝ呂としも。こゝないやうなめにあはしてやり
ましとが。所のくちきて流が。かくらましまして。やうくき
のふまんで。浪人流はしてましとが。そんなことへ。金
でもこんと。もりてどざる諸人流は。こゝなまとし取へ。諸稱て
まてこゝなまとは。ごふでもまとしが呂ざるゝ。諸稱
て。稱ところがよいそふでどざりまきとト女はあはれなるしいま
まとしかかつき。おまりのことまあいさうもおぼ。まが堂くこしてきけばきく
わどきとハとうのうちのもくさんちがひてこのもさめたて。あきれてのるうち。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

いくちがひと（浦江）にて　りふいくしいふは　ト　あいそもなくいひたるして。あい
だらうちて　てはるらぬが。そうしくうて出て
面く。浦これらのちりぬと。まふいれんと。面てちろのりくさんにて。ぞそく
せしあてがちがひ。きこハもやどのあるじの女をしさるじにきをかえしも。
せんちゝのそるしとさくよう。きてこちらく。とりげつまて。あるのあもいくちがひ
て見れば。ふんとうまうせしハ。むごとてるうさがひまへまらせ
きゝてゐる所へあるじの女　あるさがこのこでハどざりませんが。あ
あんる。まこきてうて　あるさがこのこでハどざりませんが。あ
ひよんるとことをやてまいりましこ今夜此宿（あく）まうさんる
ものかこまつこといふことで。諸人（しゆうしゆ）氣（き）を年をつけて。あいく
（こうふが）元迎さぬやうにしておけ。退身（ごせんぎ）陰義（ごせんぎ）にあ級人（ていかん）さるがお
まいりるさるといふことでどざりまさかしら。門塗（ないしやう）とおもふ

かしておきまさをろうしておきぶうひるこでハどざりません。
いてましよ。外のたてどやとちがひて。こうしのかたへ入れ。あい
お家（きや）もまこ。こうものもこまりまさとゆふ。まさしが女
でこそおまこ。この年性（きしやう）でどざりまさとゆふ。こゝへ入ひとを
きゝしきこものでもうけこんでこめまさ。ゆへ。このやうる
ことがあると。こうく宿（しゆく）の級人（やゆんしゆ）氣（き）ハこゝしの所とめどふこう
そまさとゆまこで。何もお家がうさへくさくなけまや。十二きゝ
ういのきんのじもどざりません。（浦江）十弁そんるこれ。どゝちが

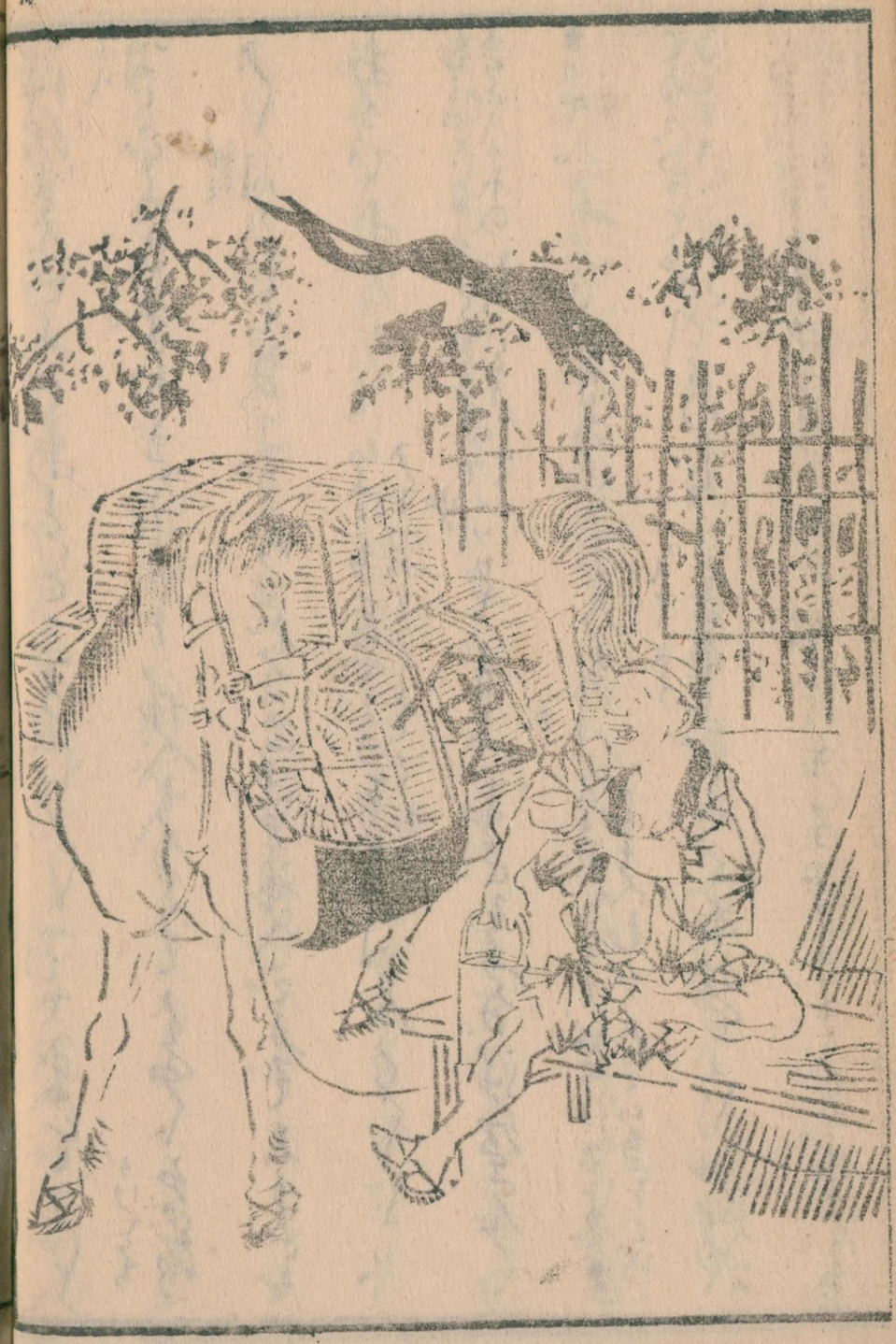
くりかきこも。ゐいとゐかものごかう。大丈夫な ものさ
さやうでござりまさと。こア 山田なりとおやきこゝ名さり
ませ ト さりてゆくきこハ ちれを 沙汰さん。なんごろおいらハ
きして大丈夫にふきぎて 沙汰さん。なんごろおいらハ
きこまかる 沙汰 なぜく 沙汰 大かこ 凡きの 増主めが。ごふしてる
との 吉田くへこまりて。そしておいらも。こまりことを 和知
して。おいつめがふんごしの 主 いーゆ 頼がくしま。ゆぞあるとゐいさ。
尾 と をいけて。ぬか 吉やアが川こも 吉見ね人から。ごふゆう
ゐりちがおかしくなりこが。そんなとじやアあるめ人から 稀

されがの。きうしふんごし ぐらゐの里くれで。ゆもきが
凡人なとしれ。あるめ人じやア稀人か 沙汰 それごこりて。きいい
とこアなくても。ふんごしごけが。うどきのこまと稀人のご
から。 ぶらいぶん 外出がまるいじやア稀人か。とまごうしおいらアとこ
こまるめ人といつこものと。おめ人かふ。むしのかぶるもよく
なれてゐるがら。むりにこなろうと。いつこ 吉川 かりで。
おいらをこんごめにあれせる 沙汰 十二 いしゐる。まめ人のこ川
ちやアあるめ人から 沙汰 サアそまごこりて。ひよりとおまこの

漢 この男も。老何といおとゝぶ 次 そもしよ。とくのゑん老也何め
のいふまへ。ゑるものへこゝる。とくのうち人こまりこゝいやア
が何こゞけ。きざじやア稱人へ。そもゞうし。人も
とのうちをめどゝしてゐるといろこが。そのめどゝして
ゐるうち人こゝるつこが因果(いんぐわ)のつくだい。さるきの情並
めが。なんと老やだりおつこう。老も稱人から。おしらぬ
ゑらぶろうが。まが老ると何ぺんま。ごんなめまゝふ
ゆう。コリヤ。ごふうんがへてゐんでも。おいらアさ人ゆげて人

漢 浮沢さんごふぞあとこのむく 漢 イヤまてく
次 ごふも。まがきじやア稱人。ちろこもまゝ 次 うけとち
く 漢 ハテそんなまうろこうとこア稱人。ごふぞ老うこが
あるでまろう ト いふうちとのやどのおもてのごんくとく ト
戸をけれしくそくおく
むしやうまさくをきいて 次 きこハうかのいろとうへて ツリヤ もふまこそふる。浮沢さんく
コリヤ ごふしこものであろう ト うろくして浮ちのよぶ
きそへむぐりとこゝいきとこゝ
てゐる。おもてまへ 次 きうよう
なともさんこうき 次 このむく。急用ぶ。そやくあけてく ト いあく
ゆるいのもの 次 ゆうましい。戸がとれる。ごもごく。なんの
月とさるし 次 やうましい。戸がとれる。ごもごく。なんの

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

のらん。馬をやつちやんぐ中川が。茶屋とのきらんのやどやで。
みつまくらきことらみとしとりかなまでまそてましらぶ。
さぬんさや出川てあきのぐるとるさ川らし。ゆき
出そ見しやアぐつらし。ナントそんどかよ。あつし売やア狐人
久八〓とらん生春ぐおらしもそんるとどかうとらん
おまてぬとぶまめ人の髪をきらそくらなぐあかしい
うらさぐてむつ申んこめなんぶ。尾よくまらうも[illegible]
茎しし[illegible]おめんも。そんならこめて且るとらしまゴリヤ

つまらぬ狐人なんのいんをともらぬ和をどらのうちへ入。やち
まけて来まるこう人。あら母とそんるふしてぐ見きぐも
弥次さんおめへがらうつぶん乃みとくこまつさぐ川なんぞ。
とんるめよあつさ。コリヤア来んでもばつうてん見そとれ狐人
トきうらろげかをとうんけしそうなひねつつまれしておろうとるなど
とかせうかられとそてちがさのるぐるうさとぶ弥てもきのどくさま
黒髪をおかひきうらん身の科の
毛もるき[illegible]見えてしまうし
きる八髪をきうらへんつまうぬるがらも。まづわらん弥

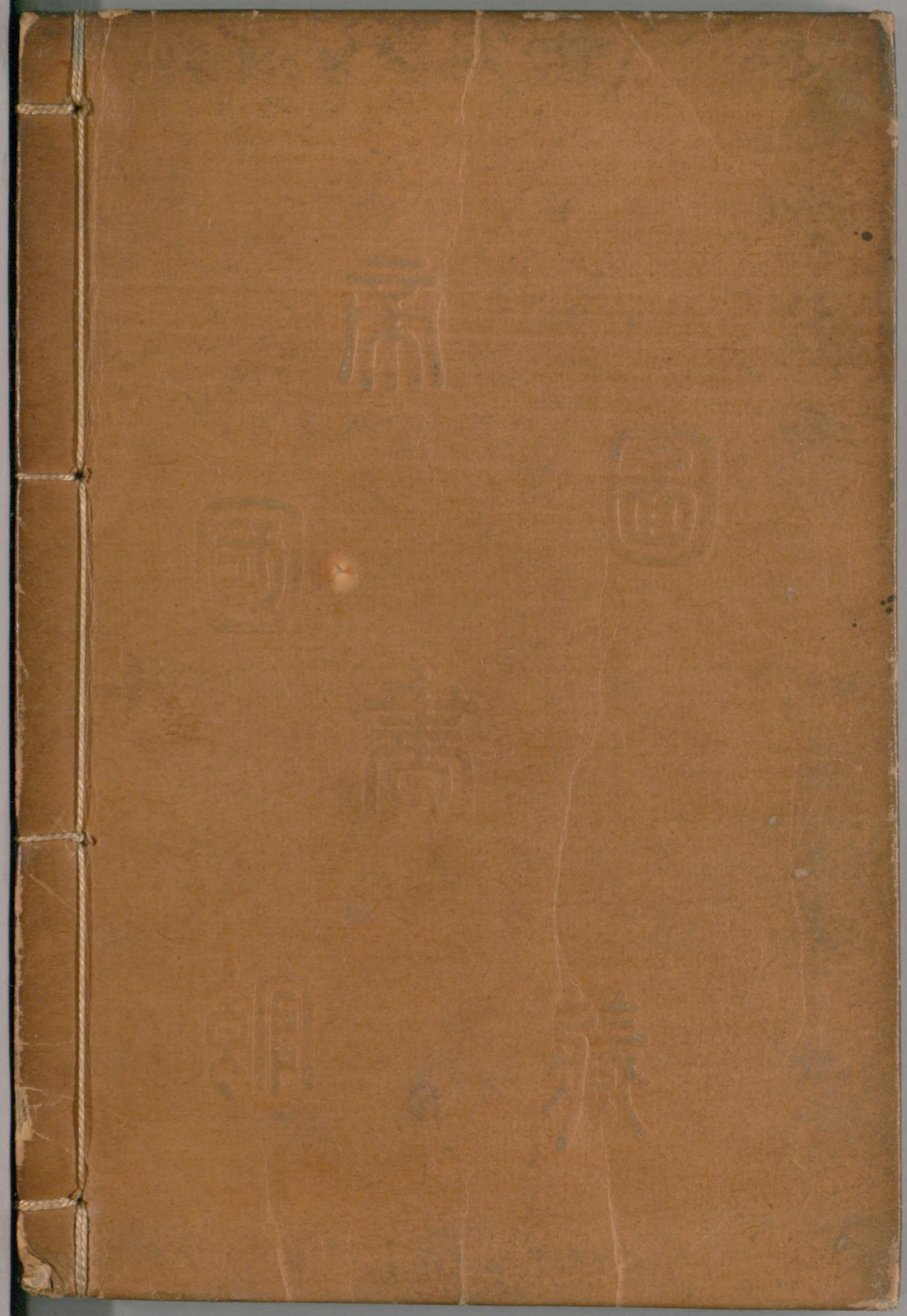
おちつ紀て。その夜も。よやよかど交これば。そのまゝち
ふしこまでもましくしと称入も甲ぐぎうつくくと
夜のあくるとぞ。まちこびに歌

續膝栗毛十三編中冊終

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53

ガラス使用